

# ひと声かけてひと助け！ ～さがえ無事かえる協力ネットワーク～



「日常」と「緊急」の支援を  
つなぐ警察署との協働の  
取組み



認知症サポーター: 4,818人  
認知症にやさしいお店登録: 98店舗  
令和元年9月末現在

山形県寒河江市高齢者支援課  
地域包括支援係 川部裕子 (社会福祉士)

# 寒河江市の概要



面積	139.03km <sup>2</sup>
人口	41,006人
世帯数	14,159世帯
高齢者人口	12,828人
後期高齢者人口	6,899人
高齢化率	31.3%
地域包括支援センター	直営1か所

令和元年9月末現在

保健と福祉の拠点：ハートフルセンター  
「何かあったらハートフルセンターに相談」が市民に定着



寒河江市は、山形県のほぼ中央に位置し、山形市から20キロメートル圏内にあります。西村山地域の中核として発展し、市内を庄内地方と県都・山形市を結ぶ国道112号が走り、また、山形県の中央を横断し、庄内地方と宮城県とを結ぶ山形自動車道には、寒河江インターチェンジと寒河江サービスエリアスマートインターチェンジでアクセスしており、県内高速交通網の要衝となっております。

山形県の母なる川・最上川と清流・寒河江川が、市街地を包むように流れ、月山と葉山、遠くに蔵王、朝日連峰を望み、四季の変化に富んだ美しい景観と豊かな自然環境に恵まれ、千年以上もの間育まれてきた歴史や文化を有しております。

# さがえ無事かえる協力ネットワーク事業(取組の体系)

## 1. 直接支援

### 「無事かえる」支援事業

道に迷う心配のある認知症等の人を事前登録

## 2. 地域見守り支援

### 認知症サポーター養成講座

“ひと声かけて人助け”声かけサポーターもお願い

### 「どさ、いぐなやっす？」ひと声運動

かけて欲しい言葉をそのまま運動に

声かけソング「どさ、いぐなやっす？」を作成しより印象付け

### 認知症見守り声かけ訓練

声のかけ方を覚えて、声をかける勇気を養ってもらう

## 3. 緊急支援

### 山形県警察「やまがた110ネットワーク」

山形県警察によるメール配信システムの受信登録



# 警察署と市がつながる必要性を整理

警察署	認知症等の人を保護した場合、家族の方には「医者に行くように」、「介護の相談に行くように」と助言指導している。
市町村	家族等から相談があれば、地域包括支援センターにて個別に対応している。そのときに、「実は警察のお世話になって」と保護されたことを聞くときもある。

→それが間違いなく対応はしている。しかし、警察署の助言どおりに受診や相談に繋がらない現実がある。

本人の意識	・どこも悪くない  ・医者には行かない  ・世話なんか受けたくない →認知症の人は、自分なりに迷惑かけないようにと暮らして
家族の意識	・本人はイヤだと言うし、しかたないか  ・相談はそのうちでいいか ・介護の相談と言われても、どう相談したらいいか分からぬ ・警察沙汰を知られたくない

→家族は警察署からの連絡には慌て駆けつけるけれど、喉元過ぎれば熱さを忘れる。家族が市(地域包括支援センター:包括C)へ相談に来るのは、大抵よくよく困ってから。

本人の状況	・相談に繋がらないと、適切な支援を受けられない ・また道に迷い自宅に帰れない、そしてまた保護 ・症状の悪化(家族への抵抗、昼夜逆転、夜中の徘徊など)
家族の状況	・疲れ、あきらめ、悩みの抱え込み、体調不良 ・本人を叱る  ・家族仲がぎくしゃく  ・開き直り

→本人も家族も孤立状態に陥る

→警察署では保護(出動)の常連化   →市では支援困難化

# 寒河江警察署生活安全課と協働までのプロセス

## 一番のきっかけは、冬場の認知症の人の死亡事故

→係全員、胸が痛んだ。

市として、包括Cとして、自分たちができることも考えないと！

### プロセス1 まずは、市(包括C)の仕事を具体的に積極的にPR

- ・ 私たち(包括C)の対応ケースで警察署とつながる必要があるものを連絡・相談をする
- ・ もし、同ケースで生活安全課でも対応があれば連絡いただけるようにお願いする
- ・ 連絡をいただけたら、またこちらの対応を報告する

→地道に繰り返すことで、認知症の人の暮らしの全体や人(支援)の関わりがお互いに見えてくる

### プロセス2 相手の特性、立場、役割をきちんと理解する

- ・ こうしてくれるだろう…勝手な思い込みをやめる
- ・ 知った責任の重さゆえの動きを理解する(ここだけの話にはできない、あいまいな取扱いはできない)
- ・ 聞きなれない言葉遣いに動搖しない、意味を理解する('検査員が現場に臨場します'等)

→安心安全を守る緊急場面で仕事をする方々の大変さを痛感

### プロセス3 いわゆる顔の見える関係(相互の理解と気遣い)

- ・ 認知症の人が安心安全に暮らせるように→目的の共通認識が持てる
- ・ お互いがつながることで目的が達成できる、メリットがある→協働意欲が湧く
- ・ お互いの意思や行動を調整できる→調和するコミュニケーションが生まれる

### プロセス4 そして、お互いの強みを生かして事業や啓発と一緒に

- ・ 個別対応を積み重ね、その限界を解決するために、今できることから工夫して取り組むことにつながる

# 個別対応協力の積み重ねから

## ■ 寒河江警察署からの保護後のフォロー依頼から分かった事実

- ・名前が言えない、会話にならない、連絡先等が分かる所持品もなく、身元が特定できない
- ・答えた名前は旧姓、住まいは実家のある隣町だったので、身元判明に時間がかかった
- ・夜中や朝方は、家族も寝ていて気づかず、警察署からの連絡で驚く
- ・昼夜逆転があり、毎晩決まって夜中に出かけるパターンがあった  
→保護をきっかけに、間を置かず包括Cで日常生活の相談対応

## ■ 事業化のきっかけとなった対応の限界

- ・どちらも保護とフォローが数回続いた高齢者夫婦。晚秋、金曜の夕方、自宅から遠く離れた人気のない道で迷っている二人をヘルパーが保護。  
→このまま自宅に戻ってもまた同様の心配が…親族は県外で危機感は薄い…行方不明届を出せる人が自宅にいない…せめて顔写真を警察の人に持つておいてもらうことはできないだろうか…その日のうちに夜勤帯の警察署に相談

# 「無事かえる」支援事業

## 【願い】無事に帰って欲しい

## 【事業化の背景】

## 緊急支援と日常支援の連携を見る化

- 警察署の対応と日常の介護支援をタイムリーに結びつけることはできないか
  - 認知症の介護や見守りが、家族任せ・ケアマネジャー任せになっているのではないか

## 【內容】

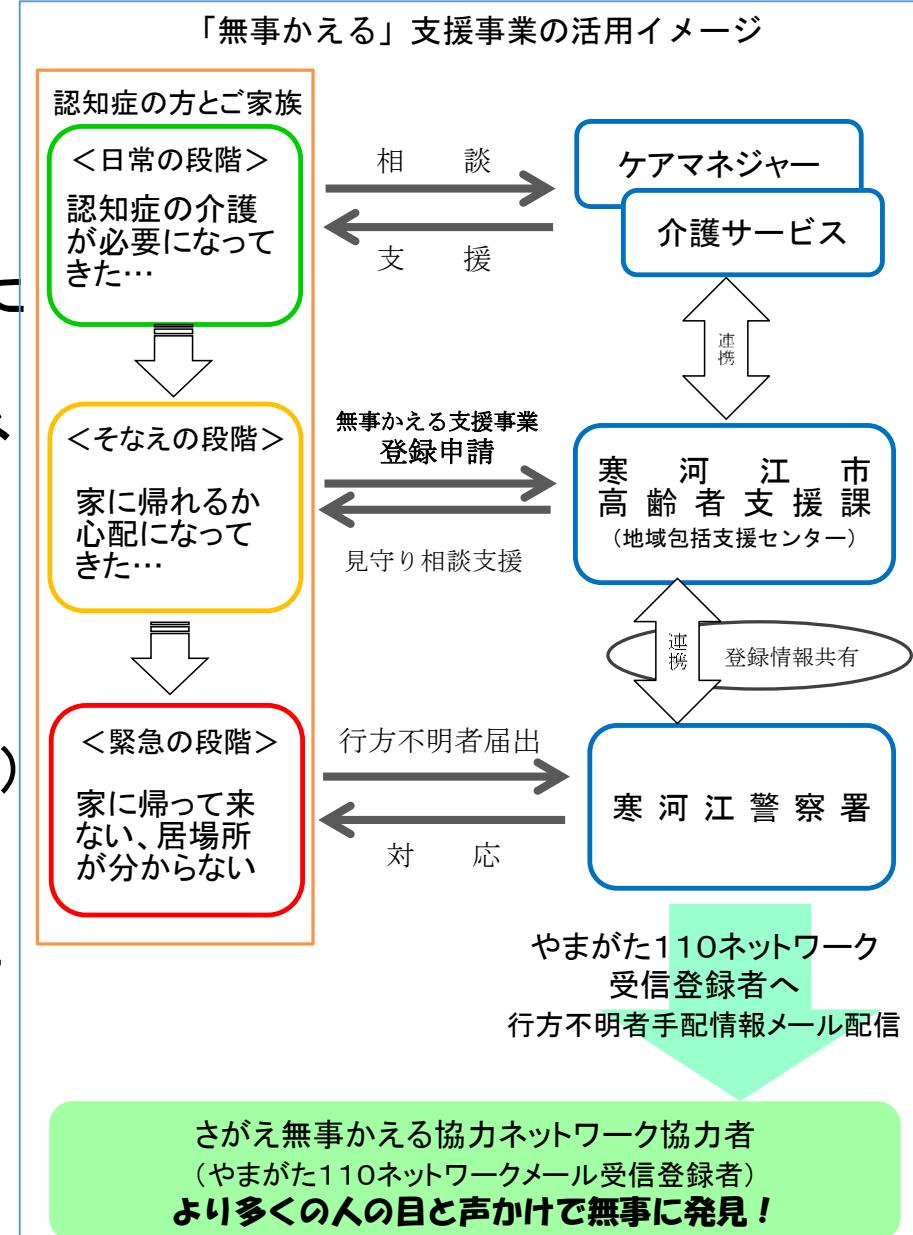
## ◆包括Cによる見守り相談支援

- ・本人の情報登録(旧姓、行動の特徴、写真等)
  - ・見守りグッズの配布(アイロンプリントシール等)
  - ・行方不明届出のしかたのアドバイス
  - ・介護の工夫の見直し・アドバイス

◇登録情報は、寒河江市と寒河江警察署で共有

登録実人数:122人 延べ人数:198人

※登録がすべてを解決する訳ではない！



## 地域包括支援センターによる訪問(見守り相談支援)にて

登録情報の聞き取り	<p>◇ケアマネジメント支援も兼ねる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登録のためだけではなく、生活状況をアセスメントし、介護サービスの使い方や、見守り方を家族やケアマネジャー等と一緒に考える</li> </ul>
写真撮影	<p>◇訪問時に写真撮影する目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>直近の写真を登録するため</b> (撮影は本人にも安心してもらえるよう説明し、場合によっては一緒に記念撮影)</li> <li>・ <b>申請しやすいように</b> (家族がわざわざ写真撮影して持参せずにすむ)</li> </ul> <p>◇写真の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市も警察署も紙ベースで保管(データでの管理よりも迅速に活用できる)</li> </ul>
見守りグッズの活用	<p>◇即、活用してもらえるように</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイロンプリントシールは貼り方を実演 (もらっただけで安心し、貼るのは「そのうちに」となる可能性もあるため)</li> <li>・ グッズそれぞれは、本人にも安心してもらえるように説明 (「他の人から間違われないように名前を貼っておきましょうね」、「身分証として持っておきましょうね」等々)</li> <li>・ 本人の個別の連絡先以外に、包括Cの連絡先も明記 (→道に迷っていた本人に一般市民が声をかけ、バックに入れていたカードを見て包括C連絡をくれたケースあり)</li> </ul>
アフターフォロー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登録者が保護された場合は、再発を防ぐために、ケアマネジャーを中心に担当者会議をなるべく開催し、支援体制を見直しする</li> </ul>

### ◇GPS活用の難しさ

認知症が進むと、新しい物は持てない、身に着けられない、靴は履きなれたものがいい



# 「どさ、いぐなやっす？」ひと声運動

H26.8月～

## 【背景】警察署現場対応のつぶやき

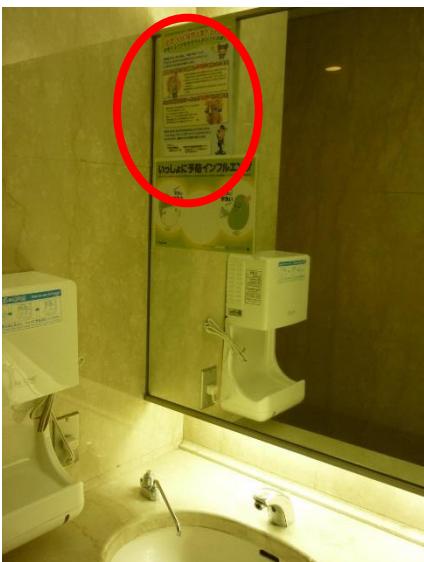
- (認知症の人が)ここまで歩いてくる間に、多くの車が通って目にしていたらどうに…
- 誰かが声をかけてくれていれば、こんなに遠くで発見されずにすんだだろうに…

なんとか多くの人に関心を持ってもらいたい  
声かけの協力を呼びかけよう！(啓発の責任を共有)

## 【課題】無関心、他人事の人にも目を向けてもらうこと

## 【工夫】かけて欲しい言葉をそのまま運動に

(具体的に分かりやすく、覚えやすく、目に付くように)



チラシはすぐに捨てられる可能性あり  
←ラミネート加工して公共施設トイレの鏡に貼ってます



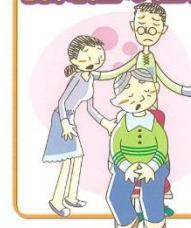
認知症サポーターの金融機関  
前で年金支給日に啓発活動 ←

## 「どさ、いぐなやっす？」ひと声運動 ひと声かけて人助け！



認知症の方が、自分の家に、“無事に帰る”ことができるよう、気がかりな方を見かけたら、ちょっとしたひと声をかけるご協力をお願いします。

認知症の症状である徘徊は、命の危険を伴っています！



- 道に迷うなど自分がどこにいるか分からずにいる認知症の方は、普段答えられることも答えられず、自ら道をたずねたり、助けを求めることが困難になります。
- 声をかけてもらえない、どこまでも歩き、その範囲は何キロも離れた市外まで行ってしまうことも少なくありません。
- 昼夜関係なく、また雨や雪であってもかまわずに歩いてしまいます。

こんな方を見かけたら…、ちょっと“ひと声”かける勇気を！



- 地域では見かけない高齢者が、ウロウロ、キヨキヨ、ソワソワと不自然に歩いている。
- バイパスなどをひたすら歩いている。
- 散歩、ウォーキングとは思えない様子で歩いている。
- 道路の縁石などに、長い時間座り込んでいる。
- 季節や気温に合わない服装で歩いている。 等々

認知症の方は、自らSOSを求めることができずにいます。  
「ここにちは」「どさ、いぐなやっす？」「大丈夫だがっす？」などのひと声と、連絡などのご支援をお願いします！

\*相談窓口\*

◆寒河江警察署 ◆寒河江市高齢者支援課  
☎83-0110 ☎86-2111 [内線623]



# 認知症はいかい声かけソング「どさ、いぐなやっす？」

## 実際にあった場面を歌詞に

### 【背景】

- ・雪降る冬場は命取り、夏場は熱中症で命取り
- ・雪解けの春は保護が増加する(年間の4割が集中)  
→一般的に人はその事実を知る機会がない

### 【願い・なぜ、ここまでやるのか？】

- ・**声かけの意識を忘れないで欲しい、風化させたくない**
- ・**関心がない人にも気づいて欲しい**

H27年度CD化



作曲・歌・演奏:大沼広美(市内在住)  
コーラス:寒河江警察署員  
●使用取扱要綱整備  
寒河江市外全国の市町村でも使用可能  
※方言部分変更可、楽譜とCDを提供



サーカルが歌うサポートとして啓発協力  
認知症サポートの警察署員や市内のコーラス



(どさ、いぐなやっす)

こんな雨なか こんな雪なか  
どっから来たなや どこさ行ぐなや  
(どこさ行ぐなや)  
気になる気になる にんちしう  
ひと声かけて 人助け  
どさ、どさ、 どさ、どさ、  
「どさ、いぐなやっす？」

(どさ、いぐなやっす)

どさ、どさ、 どさ、どさ、  
「どさ、いぐなやっす？」

2番 こんな朝方 こんな夜

3番 真冬にサンダル?

真夏にセーター?

4番 道の真ん中 わき目も振らず

5番 ひとけない道 キヨロキヨロ歩く

6番 ここはバイパス どこまで歩くの

7番 こんなところに 座り込み

# 認知症見守り声かけ訓練の実施

【背景】サポーターのつぶやき

「声をかける必要は分かったけど、声をかけるって勇気がいる…」

【願い】

## 声をかける勇気を養ってもらおう！

(まず求める協力は“検索”ではなく“声かけ”)

開催日	概要	参加者	内容
H26/9/25	・中心商店街エリアで初開催(山形県内初)	107人	体験アンケートから、今後、人助けになるなら勇気を出して声をかけてみようと思う(9割)、できるか分からぬが常に意識しておこうと思う(1割)
H27/7/30	・山形県警メール配信システム『やまがた110ネットワーク』を活用した訓練開始	10人	・第一声かけ者は、事前周知していた関係者ではなく一般の人(受信したから参加してみたと)
H27/10/12	・町内会と小規模多機能施設が自主開催	35人	・施設の地域交流会に抱き合せ実施
H28/11/16	・広域連携を発信するため隣町と同日開催	72人	・他の市町村担当者も参加してもらい意識を共有
H29/11/13	・自動車学校協力あり教習コースにて開催	90人	・車の運転中に発見した際の声かけも体験 ・公道を使わないので参加者の交通安全問題なし
H30/9/28	・市に中心部にある文化センター周辺で開催	92人	・事前にネットワーク推進会議を開催し、過去の訓練参加者からの意見を取り入れた内容に
参加者(周知):町会長、民生児童委員、地域福祉推進員、防犯協会、認知症サポーター、介護事業所、一般市民等			
R1/10/19	・地域に出向いて小単位で開催	56人	・地区の防犯協会、地域密着型特養とタイアップ ・雨のため室内でロールプレイ

# 【声のかけ方ポイント】を作成

1. まずは、様子を確認しましょう

2. 声をかけてみましょう

ステップ1: 軽い挨拶「こんにちは~」、「いい天気なだっす」



カモンくん

ステップ2: 道に迷ってないか状況の確認「どさ、いぐなやっす?」

ステップ3: 本人情報の質問「家はどこ?」、「名前は?」

3. 警察署への連絡などの対応をしましょう

- ① 本人を安全な場所で休ませましょう
- ② 本人の話などから連絡先の情報が分かったときは連絡してあげましょう
- ③ 分からないときは警察署に連絡し助けを求めましょう



➤ 市内のキャラバンメイト、認知症サポーターの協力で  
オリジナルの声かけ学習DVDも作成

# 認知症見守り声かけ訓練プログラム例

9:00

## 開会式

- ・あいさつ 寒河江市長 寒河江警察署長
- ・「どさいぐなやっす？」声かけソング披露  
【さがえ童謡をうたうさくらの会】の皆さん(認知症サポーター)

## 声のかけ方ミニ講座

- ・実演: 声のかけ方の良い例悪い例(キャラバンメイト)
- ・寒河江警察署管内における保護等の実際
- ・訓練の手順について

## 声かけ訓練エリアへ移動

10:00

「やまがた110ネットワーク」から【行方不明者手配情報】訓練メール配信  
→受信後声かけ訓練開始

<体験すること>

- ①様子を確認する
- ②声をかけ、安全な場所に休ませる
- ③警察署(訓練用電話)に電話する



11:15

## 閉会式

- ・感想、意見交換、講評等

# 認知症見守り声かけ訓練の効果

歩行者が気になって仕方がない  
(今まで全然気にも留めなかつた歩行者に目が行くようになった)

バイパス沿いの交差点で気になる高齢者を見かけ、車で引き返して声をかけた、一緒に家を探してあげたが分からず、警察署に一緒に行ってあげた

訓練参加当日帰り道、まさかと思ったが、実際に声をかけて家族に連絡してあげた(隣町の人だった)



暑い中、道端ずっと座っている高齢者に声をかけて、おまわりさんに来てもらった(訓練受けてよかったです)

ありがたい声がいろいろ

訓練参加は4年前、今年になつて実際に声をかけて自宅に車で送つてあげた(今も日頃から地区の会合で話題になつてゐる)

# 声かけ運動や訓練で一番伝えたいこと

## “ひと声かけて人助け”

自分が気がかりに思った人、  
困っていそうな人を、  
助けましょうよ！

(単純にそれだけ)



もしかしたら、声をかけたその人が、  
たまたま認知症の人かもしれないだけ



×「認知症」がある・ないを見分けて欲しいのではありません

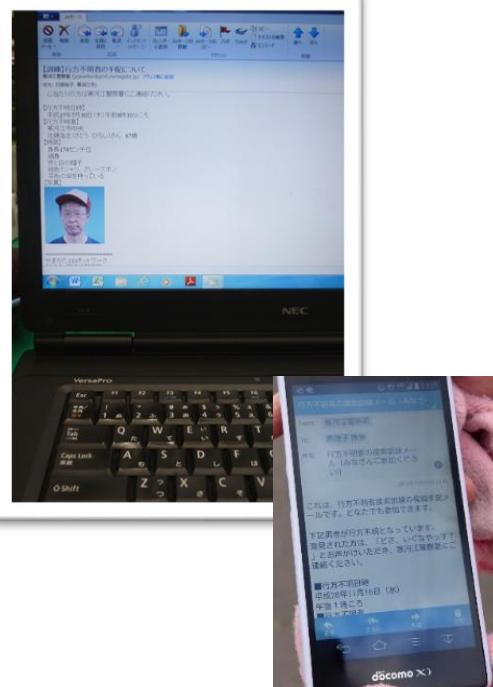
# 山形県警察「やまがた110ネットワーク」

- 認知症の人のご家族は、いざという時は、ためらわずに届出を！
- 地域の人たちは、受信登録のご協力を！

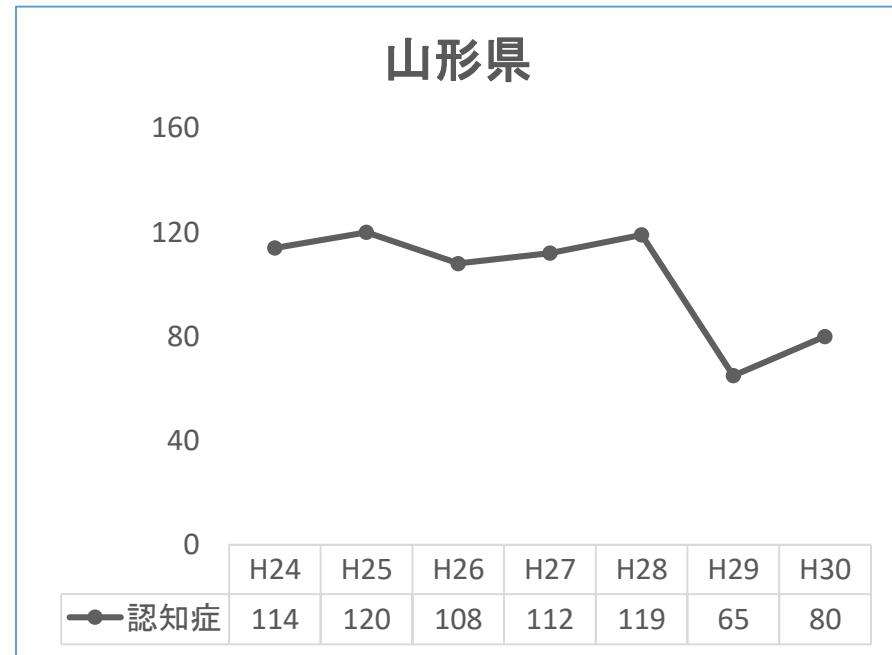
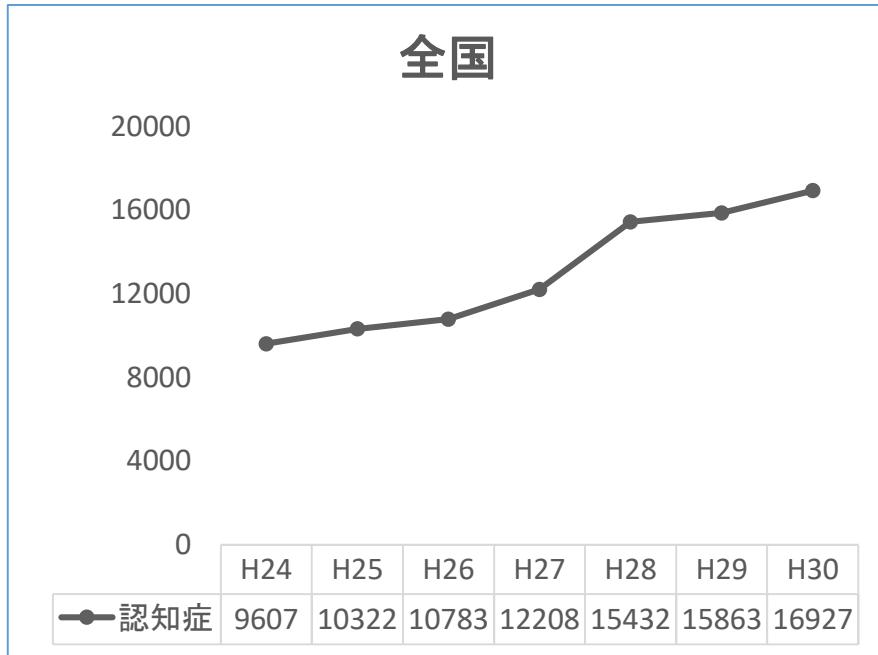
やまがた110ネットワークとは…

山形県警察から、登録者の携帯電話やパソコンに対して電子メールで安全安心情報を提供するネットワーク



受信登録(項目選択)	行方不明者手配配信	発見・保護の協力
<p><b>【情報種別】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事件手配情報</li> <li>特殊詐欺発生情報</li> <li>不審者情報</li> <li><b>4. 行方不明者手配情報</b></li> <li>交通安全情報</li> <li>交通障害情報</li> <li>防災情報</li> <li>ポリスインフォメーション</li> <li>安全安心お得情報</li> </ol> <p><b>【地域種別】</b> 情報は県内14警察署の管轄地域ごとに区分して配信</p>		<p><b>※課題</b> 登録者を増やすこと (声かけ意識が最も高い年配者は、携帯の操作が苦手)</p> <p><b>(警察署)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話会社に登録操作協力依頼</li> <li>安心安全守り隊がいろいろな場面で登録PR</li> </ul> <p><b>(市)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症サポーター養成講座などで登録のお願い</li> </ul>

# 全国の認知症(疑いある者含む)の行方不明届出の状況



提供:山形県警察本部生活安全部生活安全企画課

全国は増加、山形県は減少

## 山形県の状況

- ◆事前登録制度:県内すべての35市町村で整備(H28年2月で)
- ◆警察合同での訓練:12市町村で実施(H27年以降)
  - 捜索、手配までの時間が短縮→早期発見につながる
  - 発見から引渡しまでの時間短縮→本人、家族の負担軽減につながる
  - 広域連携の促進につながる

# さがえ無事かえる協力ネットワークをふりかえる

## 寒河江警察署管内の認知症と思われる高齢者取扱い状況



チエリ君

	行方不明届出	保 護
平成26年	10件	38件
平成27年	7件	53件
平成28年	6件	41件
平成29年	6件	53件
平成30年	5件	23件



カモンくん

提供:寒河江警察署生活安全課

### 【考察(期待)】

- ◆ ひと声運動で啓発を強化した27年度から保護が増加  
→一般の人の声かけ保護の協力が向上!?
- ◆ 「無事かえる」支援事業運用後、行方不明届出は一桁台をキープ  
→家族介護力、ケアマネジメント力、地域力が向上!?
- ◆ 30年はどうちらも減少→ネットワークが活かされてきた!?

### 【今後の課題】取り組みの効果的な継続